

制定日 2016年4月 1日


**Safety Data Sheet**  
安全性データシート

株式会社コベルコ科研  
兵庫県高砂市荒井町新浜 2丁目 3-1  
担当部門 ターゲット事業本部技術部  
電話番号 079-445-9024  
FAX 番号 079-445-9025  
緊急連絡先 同上

## 1. 品名

コバルト

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類	項 目	Coの場合
物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	分類できない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入・ガス)	分類対象外
	急性毒性(吸入・蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入・粉塵、ミスト)	分類できない
	急性毒性(吸入・粉塵、ミスト)	分類対象外
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	区分1
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分2
	生殖毒性	区分2
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性)
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分1(呼吸器)
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	区分4
ラベル要素	絵表示又はシンボル	
	注意喚起語	危険
	危険有害性情報	<p>吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こす恐れ。 アレルギー性皮膚反応を引き起こす恐れ。 発ガンの恐れ。 生殖能または胎児への悪影響の恐れ。 呼吸器、神経系、腎臓、肝臓、心臓の障害。 呼吸器への刺激の恐れ。 長期又は反復暴露による呼吸器の障害。 長期的影響により有害の恐れ。</p>

GHS分類	項目	Coの場合
ラベル要素 (続き)	注意書き	<p><b>【安全対策】</b>                      使用前に取扱説明書を入手すること。                      全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。                      必要に応じて個人用保護具や換気装置を使用し、曝露を避けること。                      適切な保護手袋を使用すること。                      換気が十分でない場合には、適切な呼吸用保護具を着用すること。                      粉塵、ヒュームの吸入を避けること。                      この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。                      屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。                      取扱い後はよく手を洗うこと。                      環境への放出を避けること。</p> <p><b>【応急処置】</b>                      皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。                      汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。                      皮膚に付着した場合、皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。                      吸入した場合、呼吸が困難な場合には、新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。                      吸入した場合、呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。                      暴露又はその懸念がある場合、医師の手当て、診断を受けること。                      暴露した場合、医師に連絡すること。気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p><b>【保管】</b>                      直射日光を避け、換気の良い場所に保管すること。                      施錠して保管すること。</p> <p><b>【廃棄】</b>                      内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。</p>
	国・地域情報:	-----

### 3. 組成・成分情報

単一物質・混合物の区別	単一物質
化学名	・コバルト
化学式または構造式	Co
官報公示整理番号 (安衛法、化審法)	-----
CAS番号	・コバルト 7440-48-4
国連分類および国連番号	-----

### 4. 応急措置

目に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	付着または接触部を石けん水で洗浄し、多量の水を用いて洗い流し、速やかに医師の診察を受ける。
吸入した場合	直ちに被災者を毛布等にくるんで安静にさせ、新鮮な空気のある場所に移し、速やかに医師の診察を受ける。呼吸困難または呼吸が停止しているときは直ちに人工呼吸を行う。
飲み込んだ場合	意識があるときは吐かせて口の中を水でよく洗浄する。直ちに医師の手当てを受ける。

## 5. 火災時の配置消火剤

消火剤	特殊粉末消火剤、ソーダ灰、乾燥砂。 使ってはならない消火剤: 二酸化炭素、散水、泡消火剤
火災時の特定危険有害性	加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災時によって刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生する恐れがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 密閉法、窒息法消火が望ましい。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸装置、化学防護衣を着用する。

## 6. 漏洩時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(8. ばく露防止措置及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
環境に対する注意事項:	環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
回収、中和:	漏洩物は清潔な帯電防止工具を用いて集め、密閉可能な容器に回収し、後で廃棄処理する。
封じ込め及び浄化の方法・機材:	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策:	全ての発火源を取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い	<p><b>技術的対策:</b> 第8項記載の設備対策を行い、保護具を着用する。  <b>局所排気・全体換気:</b> 第8項記載の局所排気、全体換気を行う。  <b>安全取扱い注意事項:</b> 使用前に取扱説明書を手に入ること。      全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。      周辺での高温物、スパーク、下記の使用を禁止する。      空気中の濃度を曝露限界以下に保つために排気用の換気を行うこと。      粉塵、ヒュームの吸入を避けること。      接触、吸入又は飲み込まないこと。      汚染された作業衣は作業場から出さないこと。      この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。      屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。      取扱い後はよく手を洗うこと。      環境への放出を避けること。  <b>接触回避:</b> 「10. 安全性及び反応性」を参照</p>
貯蔵	<p><b>技術的対策:</b> 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。  <b>混触危険物質:</b> 「10. 安全性及び反応性」を参照  <b>保管条件:</b> 容器を密閉して換気の良い冷所で保管する。      施錠して保管すること。  <b>容器包装材料:</b> 国連輸送法規で規定されている容器を使用する。</p>

## 8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	-----
許容濃度	ACGIH(2005年) TLV-TWA 0.02 mg/m <sup>3</sup> (Coとして) 日本産衛学会 0.05 mg/m <sup>3</sup> (Coとして)
設備対策	粉じんが発生する場合は、局所排気装置を設置すること。 高熱工程で粉じん、ヒュームが発生するときには、換気装置を設置する。 この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具	呼吸用保護具: 吸保護具の使用の要求される環境下では、呼吸保護具を着用する。
	保護眼鏡: 適当な保護眼鏡もしくは安全眼鏡を着用する。
	保護手袋: 皮膚の露出を防ぐために適当な手袋を着用する。
	保護衣: 皮膚の露出を防ぐために適当な保護衣を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観等	灰白色
沸点:°C	2870°C
蒸気圧:Pa(20°C)	情報が入手できません。
揮発性	情報が入手できません。
融点:°C	1493°C
比重または嵩比重	8.9
溶解度	水%(°C):不溶 その他の溶媒%(°C):希酸に可溶、アルカリ水溶液に不溶
その他	-----

## 10. 安定性及び反応性

引火点:°C	情報が入手できません。
発火点:°C	情報が入手できません。
爆発限界:上眼% 下眼%	情報が入手できません。
可燃性	情報が入手できません。
発火性(自然発火性・水との反応性)	情報が入手できません。
酸化性	情報が入手できません。
自己反応性・爆発性	情報が入手できません。
粉じん爆発性	粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉じん爆発の可能性がある。
安定性・反応性	<b>安定性:</b> 通常の取扱においては安定である。 <b>危険有害反応可能性:</b> 強酸化剤と反応する。 酸と激しく反応し、水素を発生する。 <b>避けるべき条件:</b> 混触危険物質との接触。 <b>混触危険物質:</b> 強酸化剤、酸 <b>危険有害な分解生成物:</b> 燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素、塩化水素などを発生する。
その他	-----

## 11. 有害性情報

	Coに関する情報
腐食性	情報が入手できません。
刺激性(皮膚、眼)	ヒトについては、気管支への刺激性等の記述があることから、気道刺激性を持つと考えられた。 以上より分類は、区分3(気道刺激性)とした。 呼吸器への刺激の恐れ
感作性	呼吸器感作性:日本職業・環境アレルギー学会特設委員会にて気道感作性ありと分類しているため、区分1とした。 吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起す恐れ。 皮膚感作性:日本職業・環境アレルギー学会特設委員会にて皮膚感作性ありと分類しているため、区分1とした。 アレルギー性皮膚反応を起こす恐れ。
急性毒性 (50%致死量を含む)	経口:ラットを用いた経口投与試験のLD <sub>50</sub> =6171mg/kg)に基づき、区分外とした。 経皮:データなし。 吸入(蒸気):データなし 吸入(粉じん):データが不十分のため、分類できないとした。
亜急性毒性	情報が入手できません。
慢性毒性	情報が入手できません。
がん原性	ACGIHでA3(cobalt and inorganic compoundsとして)、IARCでグループ2B(cobalt and cobalt compoundsとして)、日本産業衛生学会で2B(コバルト及びコバルト化合物として)であることから区分2とした。 発ガンのおそれの疑い:ACGIH A3(動物発がん性物質) IARC グループ2B(人に対して発がん性があるかもしれない)
変異原性 (微生物、染色体異)	情報が入手できません。
生殖毒性	親動物の一般毒性についての記述に関する記載は無いが、精巣の組織学的変化や次世代の生存率の現象などが見られているとの記載により、区分2とした。
催奇毒性	情報が入手できません。
その他(水と反応して有害なガスを発生する等を含む)	情報が入手できません。

## 12. 環境影響情報

情報が入手できません。

## 13. 廃棄上の注意

再利用のため回収します。

## 14. 輸送上の注意

キズが付きやすいので落下させたり、衝撃を与えたりしないでください。

## 15. 適用法令

	Coに関する情報
労働安全衛生法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定化学物質第2類物質、管理第2類物質(特定化学物質障害予防規則第2条第1項第2, 5号)【13の2コバルト及びその無機化合物】</li> <li>・特定化学物質特別管理物質(特定化学物質障害予防規則第38条3)【13の2コバルト及びその無機化合物】</li> <li>・名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条)(政令番号 第9-4号:コバルト及びその化合物)</li> <li>・名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(政令番号 第172号)</li> </ul>
労働基準法	特定できず
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	非該当
危険物船舶運送及び貯蔵規則	非該当
PRTR法	第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行例第1条別表第1)(政令番号:第132号)

## 16. その他

その他 (記載内容の 問い合わせ先、 引用文献等)	記載内容の問い合わせ先	株式会社コベルコ科研
	引用文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ACGIH発行TLV<sub>s</sub><sup>®</sup> and BEI<sub>s</sub><sup>®</sup>2005</li> <li>・厚生労働省:職場の安全サイト <a href="http://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx">http://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx</a></li> <li>・安全衛生情報センター <a href="http://www.jaish.gr.jp/">http://www.jaish.gr.jp/</a> <a href="http://www.nihs.go.jp/ICSC/">http://www.nihs.go.jp/ICSC/</a> 他</li> </ul>
	改訂履歴	Rev.0: 新規制定

\* 危険・有害性の情報は十分ではありません。また、本文書は安全の保証書ではありません